

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2025年12月10日
作成 高齢者支援センター	鶴川第2
作成者	伊東 雅江

1.開催日時	2025年11月28日	(金)	19:00	～	21:00
2.会場	第二清風園会議室とオンライン				
3.主催センター	鶴川1 ・ 鶴川2 ・				
4.参加人数	92名				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 10人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 2人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 27人 (うち、医師 1人)		<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 40人		
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人		<input type="checkbox"/> 老人会 人		<input type="checkbox"/> 住民 人
	<input checked="" type="checkbox"/> 町内会自治会 1人		<input type="checkbox"/> 警察 人		<input checked="" type="checkbox"/> 行政 5人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (社協3人		地域支援 生活支援コーディネーター1人 団体2人		
6.開催テーマ	大地震発生時に鶴川圏域に住んでいる高齢者の在宅避難について考える				
7.地域課題	(1)課題設定の背景				
	鶴川圏域では持病のある方や単身の高齢者が多く、地形的には山坂が多いという地域特性がある。この地域特性を踏まえ、防災体制の仕組みを知り、避難所開設訓練等に参加した結果、安全確保の観点から在宅避難が望ましい場合があることが分かった。				
8.医療と介護の連携に関する課題	(2)検討した地域課題				
	地域特性の一つ又は、複数有する高齢者が在宅避難を選択する場合において、それぞれの高齢者の状況や特性に応じた在宅避難の自助の備えが十分にできていない。				
9.会議の内容	<p>① 今回の会議開催となった経緯報告。本会議のテーマと目的を説明。</p> <p>② グループワーク：在宅避難を選択した高齢者が発災後3日間を乗り切るために必要な事前準備をするための準備リストを検討。 →各グループで「鶴川版在宅避難チェックリスト」の内容から活用方法まで活発な意見交換が行われた。</p> <p>③ グループ発表、全体共有。 →グループでは「認知症」や「ひとり暮らし」など特徴的なテーマをグループごとに設定し、設定に基づいた備えについて話し合われた内容を発表した。物理的な備えだけでなく、人との関わりとしての備えの必要性を挙げたグループが複数あった。併せて町内会・地域支援団体・行政からの感想と今後の展望についてお話いただき、町内会では「全戸配布したい」という声をいただいた。</p>				
10.課題に対する対応策・今後の地域での展開	各グループが作成した「鶴川版在宅避難チェックリスト」と活用方法案の集約・分析を行い、事務局で配布用「鶴川版在宅避難チェックリスト」初版原案を作成する。次回1/30(金)の推進会議企画会で「配布用鶴川版在宅避難チェックリスト」初版原案を提示し承認を求めるとともに、今後の活用に向けてさらに検討を重ねる。承認された鶴川版在宅避難チェックリストはケア会議広報誌「レッツケア会議」とともに町プロポータルサイトに配信し、広く活用可能となるようにする。				
11.その他					

医療と介護の連携支援センター 確認日

12月 9日